

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立香楠中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症対策を織り込みながら、コロナ禍以前の教育活動をほぼ達成することができた。その中でも職場体験による職業観の育成、修学旅行での幅広い知識の習得と敬愛・共働の精神の涵養、大学訪問による学業・進路意識への啓発など、大いに自己実現に向かって取り組むことができた。本年度もキャリア教育には力を入れ、生徒の「志」をより高める教育を継続していく。</li> <li>生徒の人権、「いじめ」についての教育や対応等にしっかりと取り組むことができた。本年度も新しい制服への移行を契機に「生徒の人権」「LGBTQs」「いじめ」等の教育に引き続き真摯な姿勢で取り組んでいく。</li> <li>また、感染症対策で学んだICT技術を駆使して本年度に活かし、よりよい教育活動を行っていく。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>校訓である「知を愛し、和を敬い、心を培え」を踏まえ、高い知性と豊かな人間性、たくましい心身を培い、高い使命感を持って社会の発展に貢献する人材を育成する。</p> <p>(1) 幅広い知識と深い教養を身に付けさせ、論理的思考力と豊かな表現力を育てる。</p> <p>(2) 敬愛・共働の精神を育み、高い倫理観と公正な判断力を育てる。</p> <p>(3) 強い意志と健やかな身体を鍛え、自己実現と社会発展に真摯に取り組む態度を育てる。</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>中高6年間を見通して、それぞれの学年で生徒の「志」を高め、身に付けるべき力を定着させていく指導を確立する。</li> <li>「キャリアデザイン」を通じて自分自身の強みや適性を見出させ、人生観・職業観の基礎を形成し、進路意識を涵養する。</li> <li>人権教育推進のため、管理職及び人権・同和教育担当者を中心とした校内推進体制の充実を図る。</li> <li>教職員、家庭、外部専門機関との密な連携を推進し、いじめの早期発見・早期解決に努める。また、特別な支援が必要な生徒の把握に努め、必要な支援と合理的配慮を提供する。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	
				●学力の向上	○「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善	○「授業中での話し合い活動や意見発表を通して、理解が深まった」とする生徒が75%以上
○家庭学習の習慣化	○生徒自身が「起床時間、家庭学習開始時間、就寝時間」を固定し、学習時間の確保、規則正しい生活の維持に効果があったとする生徒が70%以上	・日々の連絡帳に家庭学習状況を記録させ、アンケート調査と担任面談を2回以上行う。	B		・最終アンケートでは、68%の生徒が肯定的な回答であった。生活習慣の向上には粘り強い取り組みが不可欠であるため、引き続き呼びかけていく。	教務部 進路指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳アンケートにおいて肯定的な回答をした生徒が75%以上 ○人権・同和教育研修会に1回以上参加し、教育活動に実践できたとする教師90%以上	・保護者・地域に向けた道徳の公開授業を年に1回以上行う。(ふれあい道徳の実施) ・年に1度以上道徳アンケートを実施する。 ・人権・同和教育研修会に1回以上参加し、その成果を授業等で実践する。	A	・人権・同和教育の研修会には、すべての教員が参加することができた。 ・5月に保護者・地域に向けたふれあい道徳を実施し、約200名が参加した。 ・最終道徳アンケートでは、94%の生徒が肯定的な回答をした。	教務部(道徳教育推進担当、人権・同和教育担当) 情報広報部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめの早期発見、早期対応に向けた取組」の項目で肯定的な回答が教職員、保護者ともに80%以上	・各学期1回以上の生徒向けいじめアンケートを行う。 ・積極的に対策委員会を開き、組織的な対応で早期解決を図る。	A	・「いじめの早期発見、早期対応に向けた取組」の項目で肯定的な回答が生徒、保護者ともに85%であった。 ・1年間を通して、昨年度より積極的に対策委員会を開き、組織的に早期対応することができた。	生徒指導部 各学年 保健相談部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒60%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・学活ノートで日々の出来事を記入、定期考査前には計画表に学習の状況を記入、提出をさせることで生徒理解につなげる。 ・内閣府の講師派遣事業等を活用して外部講師による講演を年に1回以上開催し、生徒に将来に向けての目標を持たせる。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒は93%だった。教職員も85%が肯定的な回答をし、生徒理解に繋げることができた。 ・「将来の夢や目標を学校での学習や行事を通して考えることができています」と感じた生徒は82%であった。	各学年 進路指導部 生徒指導部 生徒会
	○環境美化	○生活環境を整え、美しく保とうとする。」の項目で肯定的な回答が教職員、保護者ともに80%以上	・生徒の環境美化への意識を高めるために生徒会活動と連携して日常の清掃活動を充実させる。	A	・「生活環境を整え、美しく保てることができた」の項目は前回より増加し91%の生徒、95%の教職員が肯定的に答えている。	保健相談部 各学年
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と回答する生徒が80%以上	・家庭科、保健体育、学活の授業で食習慣と健康への理解を深めさせる。 ・生徒会保健委員会による呼びかけを行い、食習慣に対する意識を高める。 ・年1回以上、生徒向けの食生活アンケートを行う。	A	・「健康に食事は大切であると考え、日々の食生活の改善に取り組んでいる」の項目において94%の生徒が肯定的に答えており、理解を深めることができています。引き続き、委員会活動からも呼びかけをしていきたい。	保健相談部 各学年
	○「望ましい生活習慣の形成」	○睡眠・食事・学習時間を含めた生活習慣調査で望ましい回答をする生徒が70%以上	・学期に1回生活習慣調査を行い、望ましい生活習慣の形成を意識づける。 ・学活等授業で生活習慣の振り返りを行う。 ・調査結果を保護者に知らせ、改善へ向けての支援を依頼する。	B	・「規則正しい生活」において肯定的な回答の生徒が68%に落ちている。理解しているが実践が不十分である。 ・保健委員会による生活習慣調査結果を「保健委員会だより」通信として発行し、規則正しい生活の提案をすることができた。次年度は実践調査が必要である。	保健相談部 各学年
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外の補償、部活動の縮減 ・ICTを活用した業務の効率化と代替、縮減 ・出勤システムを活用した時間外勤務の管理	B	・「上限の遵守」に肯定的に回答は74%と中間評価と変わらなかった。継続して取り組んでいく。部活動においても休業日の設定は遵守されている。 ・引き続きClassi、メール、校務フォルダなどの積極的活用で業務の効率化を図る。	管理職
	○労働環境の改善	○「時間外業務が縮減された」と回答した教職員70%以上 ○「職場の環境改善が行われた」と回答した教職員70%以上	・業務の標準化による縮減 ・職員の負担減となる事務用品(機器)の設置 ・衛生委員会の協議事項の推進	B	・「業務の縮減」と「職場の環境改善」は、それぞれ74%・79%が肯定的な回答で目標を上回った。 ・衛生委員会等での感染症、職員の健康管理・職場環境など協議結果の反映を図った。施設設備の老朽化など時間を要する案件もあるが優先順位を皆で共有して改善に努める。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	
○読書指導	○読書活動の充実	○学校図書館の本の貸出数が前年度比で増加している生徒が70%以上	・校内読書会の実施 ・図書委員による読書レースの実施 ・朝読書の実施 ・読書感想文コンクール応募と文集刊行 ・学校図書館だよりによる本の紹介	C	・前年度同時期と比べ、本の貸し出しを多く行ったと答えた生徒は21%であった。内訳では、1年生の貸出冊数は増加したものの、2年生、3年生で大きく減少した。 ・新春読書感想文コンクールでは、地区審査において、全校で5名が入賞、うち2名が特選であった。 ・図書委員による本の紹介ポップ作りなどを実施し、図書館利用の呼びかけを行うことができた。	教務部(図書担当) 各学年
◎キャリア教育	○中高6年間を見通し、分野別学習の充実・系統的なキャリア教育の推進。分野ごとの取り組みや、生徒が将来の進路や職業について考える機会の充実	○将来の夢や目標を、学校行事を通して、考えることができた肯定的な回答をした生徒80%以上	・生徒全員による分野別学習の取り組みの発表の実施 ・校外研修等では、分野別学習と位置づけ、大学等で研修を行い、将来の職業への関心を高める。 ・高校生や卒業生や高校の先生方による進路講話等を実施し、目標設定の手助けを行う。	A	・「将来の夢や目標を学校での学習や行事を通して考えることができています」について、肯定的な回答をした生徒・保護者ともに82%と達成できた。 ・高校生や卒業生や高校の先生方による進路講話等を実施し、目標設定の手助けを行っていききたい。	進路指導部 各学年
○生徒会活動の充実	○一人一役の係活動の設定と、生徒会活動に積極的に取り組む生徒の育成	○「生徒会の活動に積極的に参加することができた」と感じる生徒70%以上	・各種委員会(月1回) ・生徒総会(年2回) ・鳥栖香楠祭を中心とした学校行事の企画・運営 ・生徒会会長選挙及び立会演説会	A	・定期考査前の自習室開設や被災地への募金活動など、積極的に活動したことで、「生徒会の活動に積極的に参加することができた」と感じる生徒は77%で目標を達成できた。 ・前回36%だった項目「前期生徒総会で積極的に意見を出した」は、52%に増加した。	生徒会 情報広報部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>本年度は、コロナ禍でできなかった諸活動をほぼ達成することができた。職場体験による職業観の育成、コロナ後の新たな香楠祭の開催、関西方面への修学旅行による幅広い知識の習得と敬愛・共働の精神の涵養、九州大学・熊本大学訪問による学業・進路意識への啓発など、自己実現に向けた取り組みができた。その中でも生徒希望による習熟度別学習会を全学年に行い、個々にあった学力の向上を図った。次年度もキャリア教育には力を入れ、生徒の「志」をより高める教育を継続していく。</p> <p>・ICT機器によるオンライン授業や教材の配信、各種アンケートの実施、学校からの連絡、各種行事への活用など様々な教育活動に反映させることができた。</p> <p>・生徒の人権についての教育や対応、「いじめ」についてもしっかりと取り組むことができた。また、新しい制服への移行による「生徒の人権」「LGBTQs」「いじめ」等の教育には引き続き真摯な姿勢で取り組んでいく。</p> <p>・「業務改善」と「働き方改革」について時間外在校等時間の平均は33時間であり昨年度と同時間であった。行事等コロナ禍前の学校生活へ回帰していく中で、ゆとりをもって業務に臨む実感が少ないとの意見もあり実感と成果が伴う業務の精選・改善に次年度以降も取り組んでいく。</p>
----------------	---